

会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回中野市総合戦略会議
日 時	令和2年1月31日（金） 18：30～20：00
会 場	市役所会議室 43
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・出席者：前澤憲雄（会長）、小野建一（副会長）、高橋一隆、山浦直人、小田切康雄、佐藤美紗、中村頼子、若林正展（アドバイザー）・欠席者：関貴彦、中村稔彦、佐藤康、後藤治志、永井孝一、山口美緒、相子靖子（委任）、松野奈月・市出席者：保科総務部長、佐野政策情報課長、有賀課長補佐、松下副主幹
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会（進行：保科部長）2 会長あいさつ3 会議事項（佐野政策情報課長）<ul style="list-style-type: none">・現行総合戦略の効果検証について・第2期中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について中野市人口ビジョン2020について第2期中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について・今後のスケジュールについて4 その他5 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

令和元年度第2回中野市総合戦略会議

令和2年1月31日(金)

18:30~20:00

市役所会議室43

1 開会

出席人数は16名中8名となっております。過半数に達しているため会議は成立いたします。

2 会長あいさつ

3 会議事項

○現行総合戦略の評価検証について

・政策情報課長から資料に基づき説明

・委員からの質問及び意見

(会長)

ただいまの説明について、ご意見、ご質問はありますか。

8月の会議で説明いただいた内容とほぼ同じでありますので次に進めてよろしいでしょうか。

○第2期中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

・中野市人口ビジョン2020について

・政策情報課長から資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、ご意見、ご質問はありますか。

(委員)

人口のことなんですが、この先日本の国が人口減少になっているので、これから国が進めている外国人を入れるという戦略がありますが、中野市も外国人が住みやすい街づくりをしていかないと人口が増えないと思う。日本人が増えることは考えにくいので、そういう戦略を練っていただいた方がいいと思います。

(政策情報課長)

ご意見のとおりだと思います。国の総合戦略の中にも外国人について記載されております。

今までは、女性、高齢者が活躍すると言っていたものが、更に障がい者、外国人と広げながら就業支援ということできております。中野市もこの後の総合戦略の中でも障がい者等となっておりますが、外国人も含んで考えております。市の政策の中でも外国との交流、外国への販売戦略、観光の面でのインバウンドも新年以降の中に盛り込んでおり、外国人の対応としております。

(会長)

推計値を努力目標で上回る意欲的な目標人口となっていると思います。掛け声だけでは達成できないと思いますので、達成するにはどうしたらよいか次の計画の中で示されていると思っています。かなり背伸びをした目標だと思いますが、委員の皆さんから見てどうでしょうか。

(委員)

難しいと感じました。やってみないとわからない。出生率はなんだかんだ少しずつ上がっているのだから皆さんが長生きすれば達成するのではないかと思います。

(委員)

5ページの須坂のベットタウン化で人口が増えているという要因、長野市に近いベットタウンで人口増という事なんだろうが、中野市は6ページで須坂市より長野市から遠くなりますが、中野市に移ってきている市で、飯山市89人、山ノ内93人、というように北の方から人口が移っている。本当は中野市を通り越して須坂市の方が雪も少ないし、住みやすいかもしれませんが、飯山市、山ノ内町から移ってきているという事は住みやすいと選択したことの結果だと思います。さらに中野市の特色であるブランド化をより打ち出して中野市中心市街地での歴史、文化のアピールをしていただきたいと思います。連合会では、中心市で商売をやっている方は約100事業者の方たちが入っていますが、現状この会も会員の60歳以上が65%~70%で今後あと5年以降に廃業する方が増え、会員が減り、店も少なくなる現状です。100の事業者で後継者がいる方が約3割で商店が減っていくわけですが、減っていく中で新しく起業する方がいないわけではないと思います。実際、銀行の隣に新しく飲食店を起業された方は、神奈川県から移住されてオープンしています。その中で中心市街地をもう少し歴史、文化の特色をアピールして、ブランド化してやっていただくと起業する人も増えると思います。空地、空き店舗をどうするのか、空地に住宅ができるような環境を造っていただけたらありがたいと思います。空地、空き店舗がどんどん増えていくので、人口を増やすにはよそから来た人に起業してもらう魅力が市になれば起業する気持ちにならないので特色を出すことを戦略として入れていただきたいと思います。

・第2期中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

・政策情報課長から資料に基づき説明

(会長)

説明いただきましたが、新しい言葉も出てきていますがご質問からお願いします。

基本目標2「故郷」のふるさとに住まう人口定着戦略と書いてありますが、「故郷」の

ふるさとに住まう」とあえて表現した特別な意味は何か。

26 ページの健康長寿日本一をめざすまちづくりについて今、市町村単位で日本一はどこですか。それを上回る取組をすることで日本一になるのでしょうか。

(政策情報課長)

「故郷」のふるさとに住まうについてですが、「故郷」は童謡の唱歌、高野辰之の「故郷」でございます。高野辰之の生まれ故郷は旧豊田村であります。現在は中野市となりましたが、唄の情景が高野辰之の故郷の情景でございます。それを「故郷」のふるさととキャッチコピーのようにし、引用しております。中野市に人口定着していただくということです。

(経済部長)

経済部長の宮本です。今回初めての参加させていただいております。理由は、経済部の KPI が大分盛り込まれております。SDGs のバッジをつけておりますが、市長はじめ職員にも広まり、SDGs に自治体として協力する姿勢を表すところから着用しています。補足説明させていただきます。「故郷」のふるさとというイメージも中野市庶務課の広報係でもキャッチフレーズ的に使っております。他でいうと「ちょうどいい田舎」もキャッチフレーズとして使って移住定住に向けて PR するということがあります。ふるさとに住まうというのは、移住者だけではなく中野市に既に住んでいる市民の方も他の自治体に移動するのではなく定住していただきたいと親しみを込めたふるさとを使わせていただいたということです。政策情報課長の内容とほぼ一緒だと理解していただけたらと思います。

(会長)

故郷のふるさとである中野市を愛する内外の人達がお互いに力を合わせて中野市と共に盛り上げようという意味が住まうという事が背景にあるのかと思っておりました。住まうというのは文語でありまして、あえて持ち出したことに何か意味があるのかと思いました。市民の皆さんにも聞かれるのではと思います。

(政策情報課長)

健康長寿日本一を目指すまちづくりの関係でございますが、日本一の市町村は把握しておりません。ここで日本一と言っているのは男性、女性共に長野県が全国 1 位でございました。中野市では現在健康づくり課を中心にしまして健康長寿のまちづくりがかねてから盛んでありまして、全国に先駆けて保健補導員制度を取り入れております。保健補導員が中心となり日野原先生の指導を受け減塩運動も早い時期から取り組みました。かつて脳卒中の死亡率が高かったものを下げてきている実績もあります。日本一の長野県の中で健康長寿に取り組むという事でこのようなキャッチフレーズにさせていただきました。

(会長)

目標値の 82.23 歳と女性の 84.46 歳を達成すればこれで本当に日本一になれるのか。健康長寿日本一が長野県から滋賀県に移っていますよね。滋賀県の中でどの市町村が健康長寿で上にいっているのかなどデータとして持っていたらどうか。長野県の市町村単位で言えば松川村が健康長寿で上位にいると思います。裏付けとして持っているうえで、この目標値を達成すること。達成する背景は課長がおっしゃったことだと思います。

他にみなさんどうでしょうか。

(委員)

去年の10月で地域おこし協力隊の任期が終わり現在主婦をしています。印象として中野市は環境的に子育てしやすい場所でそれを打ち出しながら移住のアプローチを市内の方にも首都圏の方にもできると思います。皆さんの話を聞いて感じたことがあります。私は、仕事で移住相談会、就労相談会や移住を希望している方が実際に中野市に移住している方とお会いする機会が多々あります。その中、須坂市でもやっていますが空き家巡りなど起業する方に興味を持ってもらうきっかけになる。東京有楽町にふるさと回帰センターがあります。そこを中心に47都道府県の市町村の窓口があって、それぞれパンフレットや実際に人もいるような場所があります。移住や就農に関わる人だけが行くのではなく、起業する人をまちに呼び寄せたり、ほかの市町村はどのようにしているのか、実際にどんな人たちが来ているのか、どういったものを求めているのかなどアイデアが詰まっているのではないかと思う。中野市に就農してもらいたい、起業してもらいたい、どのようなアプローチで中野市をPRしなくてはいけないのかなど、施策を考えるのに一部の人間だけが行っても結局、発信しているつもりでも発信しきれてない部分もあったと思うので是非、行政の上の方にも興味のある方にも研修旅行のような感じで実際に行って意見交換等するともっといいアイデアが生まれると思います。

(経済部長)

移住者の明確な定義というものはありませんが、今日欠席のA委員やかつて地域おこし協力隊の隊員だったB委員、C委員は中野市に定住していただいています。地域おこし協力隊にミッションを与えどんどん増やし中野市に住んでいただきたい。小学校が統廃合になっておりますが校舎の跡地利用について市長から宿題がありB委員さんのお話にもありましたように、起業する方が移住するには仕事と住宅セットで紹介しないとなかなか難しい。経済部営業推進課で具体的に来年から移住専門の係を設けまして、首都圏、関西圏、県と一緒に移住者向けの会議、紹介するイベントに参加させていただいて、その方が希望するプログラムで中野市を紹介して学校や保育園、病院、仕事、観光施設等セットで紹介して移住者を増やしていきたいと考えています。B委員さんから提案ありましたように総合的なものを色々な窓口で紹介するのではなく、営業推進課がワンストップで紹介できる体制づくりを校舎の利活用等も含めて考えてまいります。

(委員)

ずっとワンストップでできたらいいと思っていました。

(経済部長)

現在、隊員が5名おりますが、来年度4月1日に内定された方がおります。B委員に近いミッションで3年間中野市内で活動いただきます。いずれ皆さんに紹介させていただきますのでよろしくお願いします。

(委員)

空き店舗対策として行政にもう一步踏み出していただきたい。大家さんに貸してくれるのかどうか、使えるのかどうかという事を行政が前面に立っていただくと大家さんも行政の方なら心を開いて市のためならいいですよという方もいるだろうし、ダメだという方もいますが、今の現状、空き店舗の情報だけは外観からして空き店舗だという情報しか発信

してなくて果たしてその空き店舗を貸してくれるのかどうかという情報が全くない。貸すか貸さないか聞くのは立場があるので、貸す側からすると怪しい人には情報を与えないので本当に真剣に空き店舗対策をしてくださるなら行政が旗を振っていただくと空き店舗も開ける。そして移住者に対して起業できる場所があることを伝えるとここまでやっていただくと具体的になっていくと思う。現状そこまで踏み込んでいる市町村は少ないかもしれませんが、是非空き店舗ツアーもできるような現状をつくっていただきたい。具体的に空き店舗対策をしてください。

(経済部長)

商工会議所の役員が情報を持っています。先日、理事者等と会談された際、身元がしっかりした方であれば商工会議所で紹介したい物件が多数ある。全部把握しているわけではありませんが、それを移住者向けの方に紹介するなど考えられる。3月議会で来年度予算の承認をもらう予定の観光協会があった建物ですが、市で整備して「お試し店舗」として貸し出し、そこで経験を積んで空き店舗となっているところへ移転したい方がいれば空き店舗とマッチングしてお店を開く形で、市の方でも改装費用の1/3上限200万円までという事で予算化しております。今年度は当初予算の2倍を補正するほど商店が改修されております。これから期待したいことは、ホテルが4月以降におそらく出来ると思いますが、ホテルができれば必ず外へ食事に出られる方がおりますので、商工会議所から関係する飲食店に営業をかけながら飲食店のマップというものをホテル向けにホテルが完成する前に作りたいと聞いていますので、いい物件からはどんどんと埋まっていくのではないかと期待しています。

(委員)

期待している。工業の方も期待しています。相乗効果が期待できると思います。

(委員)

27ページの災害に強い安心なまちづくりで、防災、減災という言葉がありまして、備えも大事ですが、昨年10月の台風災害の実体験の反省会を社協で行われるそうです。反省だとか、避難所でのシミュレーションなども大事に考えていただきたいと思います。私は、消防団に入っていますが、昨年の台風は初めてという事もあって避難所で管理運営の補助をしていて、大分慌てたことも反省でありました。備えももちろん大事ですが何かあった時の反省など活かしていただけるといいと思います。私は、倭地区に住んでいますが、先ほど閉校の話がありましたが、倭小学校の体育館が避難所になりましたが、川も近くて岩井地区の方がたくさん避難してこられました。今後、3月で閉校になったら避難所がどうなるのか、心配だと地元で話が出ています。その辺は考えていただけてると思います。

26ページの健康長寿についてですが、重点事業にいくつかあるのですが、保健補導員の仕事が今後増えたりするのでしょうか。3月に区の総会がありまして、多分、私に4月から2年間保健補導員をやるようにとの話しだと思います。よく内容はわかりませんが、活動が平日の昼間などの研修が多いらしい。会社員の立場からするときつい。小さい村なので年上から回されるので受けるようになりますが、働く立場から区の役を押し付けられてしまうと、若いお嫁さんが入ってこない原因でもあるのではないのでしょうか。

(総務部長)

災害に強いまちづくりの関係について、昨年の10月の台風19号では大きな被害が発生しました。多くの皆さんに避難から始まって、その中では市の対応として色々反省すべき点等市民の皆さんからの声もいただいております。しっかり検証し、次の災害時には更に市民の皆さんに寄り添う形での対応ができるようにしたいと思います。具体的には、関連して国土強靱化地域計画の中に策定していくこととしています。これに関しては、ハード面や、防災計画につながるようなソフト面を含めて、総合計画ともリンクするものですが、防災、減災関係を網羅した計画を策定していく中で、今回の災害の検証も含め、活かしていきます。倭小学校について、今回の災害では避難所という事で付近に住まわれている皆さんにとっては、小学校の統合後のことについて心配されている声も聞いております。当面、後利用が決まるまでは万が一のために管理していきますし、将来的にも地域の避難所という事に配慮して考えていきたい。

(政策情報課長)

保健補導員についてですが、保健補導員を受けていただいたという事でありありがとうございます。補導員の活動については、中野市の健康づくりを考えた時に一番根幹になってる活動だと思います。専門的な方に携わっていただくということではなく、全く経験のない方に2年任期でたくさんの方にやっていただくことによって、地区全体の健康づくりに役立っていただく、皆さんのために活動していただいておりますが一番は補導員になっていただいた方とその家庭、あるいは周りの家の方々が健康になっていただくということでそういった方に役を交代で回していただいて全体的に底上げになっていただくという側面もあります。色々な方に携わっていただく関係もありまして必ずしも農家の方だけではございません。自営業の方だけでもございません。勤め人の方も中には大勢いらっしゃいます。活動としましては、平日の昼間の研修会ももちろんありますがその他にも健診の取りまとめ、配布物、市からの健康ニュースの配布、地区の健康まつりとなるとだいたい日曜日の朝行われる事が多いです。勤め人の方も参加しやすい休日となっております。もちろん平日の行事もありますので参加できる範囲でお願いしております。ご協力をお願いします。

(政策推進係長)

防災の関係ですが、防災、減災だけではなくて台風19号の反省点についても実際の避難所等の充実、確保できるようなこれからの災害という点について、戦略の中には防災、減災の言葉はありますが、ただ今いただいた意見はないので加える形で修正したいと思います。修正し、会長に確認し、3月に会議を開催する予定ですのでその時に提案させていただいて見ていただきたいと思います。パブリックコメントは、修正後で出したいと思います。

(会長)

一部修正することで進めていただきたいと思います。その他にご意見ありますか。

(委員)

特色あるまちづくりの中で、商店連合会の中で「横町再生研究会」という事業を立ち上げました。横町とは中央通り商店街があり、東山方面に向かって高梨城までの横町の通りを人が歩いてくれる魅力ある通りにしたいという思いから研究会を作りました。その中の

意見で高梨城に向かっていく横町通りこれは、黒姫物語が民話で中野市にあるわけですが黒姫様が黒姫山から里帰りの道だという事で「黒姫様の里帰りの道」としたらどうかという案ですが、楽しく通れる横道が今残っている、昭和のレトロな通りという言い方もあるかもしれません。その通りを人が歩いて楽しめる通りとして唯一残っている。交通に便利な縦通りとなってしまうのが今の現状です。文化的に高梨城に向かっていく通り、民話がある通りなどプラスアルファやっていると魅力ある通りになるのではないかと。これを1つのブランドにできないかという事でご協力いただければと思います。これは要望です。ハード面、例えば石畳のとおりにしたいとなると行政の力を借りたい。

(アドバイザー)

人口減少等県でも取り組んでおりますが、それぞれ連携しながら、一つの自治体ではなしえないと思います。色々な主体の方が自主的に連携し合ってやっていけたらと思います。達成できるよう県もバックアップさせていただきたいと思います。新たな取り組みをしていただけるという事で非常に期待しています。

(会長)

他にございませんか。

協議事項の(3)に移りたいと思います。今後のスケジュールについて議題とします。

○今後のスケジュールについて

- ・政策情報課長から資料に基づき説明

(会長)

説明いただきましたが、ご質問等ございましたらお願いします。

以上で協議事項を終了となりますので進行をお返しします。

(総務部長)

ありがとうございました。続いて(4)その他について、委員の皆さま何かありましたらお願いします。いかがでしょうか。

4 その他

- ・政策情報課長から説明

(経済部長)

昨年8月の会議の際に、委員さんからいただいた農産物のブランド化の取組のご意見に対する、市の考えをまだお答えしていなかったため、この場を借りてお答えさせていただきます。ブランド化の取組はJAだけではなくJA以外の生産者の方もいらっしゃいますので、ブランドというのは農産物から売り出すことも1つの手段ではありますが、ネーミングの方法は色々ありまして、中野シャインマスカットという名前が商標登録になればいいですが、現在そのような状態になく、中国や韓国に苗木そのものが流出されている状態

です。また、種苗法が今国会で提案されましたが、生産者が販売できる地域、生産できる地域を守るという法改正があるのでそれに期待しています。法整備ができれば中野市独自のネーミングをして販売していくという事も可能になると思います。農協の組合長は、作ったものを売るのではなく、売れるものを作る。高品質の農産物の生産にJAも取り組んでいきたいとおっしゃっていますのでそれを行政としても支援していきたいと考えております。

(総務部長)

以上のとおり報告させていただきましたが、委員の皆さまからご意見ありますでしょうか。

(会長)

オランチェの活用の話が最近注目すべきではないか。平成7年に直接運営に関わり、立ち上げから色々な思いがあってやってきました。令和2年になったわけですから、約30年経つのだらうと思いますが、メジャーになってきた。中野市外に発信をする当初のスタートは、農産物産特産館と市に考えていただいた位置づけですが、その機能が年間30万人以上の方がほぼ安定的に来場されてきている。一か所にそれだけの人が来ているところは他にない。それなりに東京、名古屋、大阪の皆さんの口コミの中では中野を代表する発信拠点と言っている。我々以上に外の皆さんの方が考えているという事がわかりました。なぜかというと、松本大学に山根観光学教授がおりまして、島根の出身です。山根先生は全国を歩いている。JTB出身の観光学の教授ですが、この先生が色々な所を歩いていてあの位素晴らしい直売所は日本中探してもないと絶賛していました。宝の持ち腐れで、我々自身そこまでの意識がなく、JAアップルがやっている仕事で、自分には関係ないと思っているのではなからうか。外から見たら機能を持っていると思われる。是非、オランチェをプラットフォームとしてブランド化を進めていくときの発信拠点として、もっと色々な知恵を出してやっていく。オランチェでプレミアムなものを発信して、中野市の他のものに波及するような施策のでこに使えるのではないかという事を意見として伺っていますのでこの機会にぜひ検討していただければと思います。

(総務部長)

ありがとうございました。いただいた意見を参考にさせていただきたいと思います。

他にございますか。ないようでしたら、事務局からありますか。

(政策情報課長)

先ほどスケジュールでお伝えしましたが、この会議の次回につきましては、3月中下旬頃に開催するという事で通知したいと思います。今回ご協議頂いた人口ビジョン、総合戦略の決定という事で修正後のものをご覧いただき、ご協議頂きたいと思います。

(総務部長)

本日は大変貴重な時間を頂戴いたしまして多くのご意見、ご提言をいただきましてありがとうございました。令和元年度第2回中野市総合戦略会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 (20 : 15)